

# 全国の火山活動状況

気象庁地震課火山室

気象庁が常時火山観測を実施している精密観測4火山については、昭和52年1月以降3月末までの活動状況を、普通観測12火山とその他の火山については、報告をうけたものについて状況を要約した。火山情報発表状況を第1表に、全国火山活動概況を第2表に示す。

第1表 火山情報発表状況  
(昭和52年1月～3月)

火山名 回数	桜島	阿蘇山	浅間山	伊豆大島	三宅島	霧島
定期	3	3	3	3	1	1
臨時			1			

第2表 全国火山活動概況(昭和52年1月～3月)

火山名	1	2	3
桜島	▲	▲	▲
浅間山		△	
草津白根山	△		
那須岳	△		
日吉沖の場	△	△	
福神岡の場		△	△

▲ 噴火 △ 異常

## 桜島

爆発回数、噴煙回数、地震回数の月ごと推移は次のとおり。

2月2日から3月5日まで爆発がなく、また有色噴煙も3月2日までとだえ、2月の地震回数1887回は昭和51年2月の1749回以来の低い水準となった。

月	1	2	3
爆発回数	10	2	4
噴煙回数	34	7	26
地震回数	5517	1887	4337

## 主な活動

- ・1月31日16時32分の爆発は、爆発地震の最大振幅は3 $\mu$ と小さかったが、噴煙活動が強く、火山雷が2回観測され、有村では米粒大の火山礫が降った。
- ・2月1日10時05分の爆発は、爆発地震の最大振幅は10 $\mu$ にすぎなかったが、少量の噴石が6合目まで飛散し、都城市、日南市、大隅半島の高山町でも爆発音や空振を感じた。また強い北西風の影響もあり、風下の南東側に著しく強い空振が伝わり、有村の桜島保養所では窓ガラスがたわみ、垂水市の協和小学校では51年5月17日の爆発に続いて、窓ガラス56枚が割れるという実害が発生した。
- ・1月16日、17日、27日、28日には桜島の南側の深い所が震源とみられるA型地震の発生がみられた。この中で27日00時05分のは桜島の沖小島近くの深さ10kmが震源と推定され、鹿児島市内の一部で人体に感じた所もあった。

- ・ 3月25日01時32分に鹿児島湾南部（指宿北東沖合）を震源とする地震があり、鹿児島市、枕崎市、指宿市、喜入町、東桜島町、垂水市等で有感であった。この方面では昭和42年8月5日、指宿市田良浜付近を震源とする有感地震が発生したことがあったが、当時桜島火山観測用電磁地震計（C点）によるP～Sは5secで、今回のそれは4secであった。

### 南岳火口状況

1月もB火口から有色噴煙はみられなかったが、1月24日と31日に海上自衛隊鹿屋基地のP2J機から撮影された南岳の火口写真によると、A・B両火口間の障壁の破壊はその後も進行し、とくにB火口内の北西側火口壁のA火口側へのくい込みが一段と進行している。

### 阿蘇山

中岳第1火口は引き続き白煙を静かに上げる静かな状態が続いていたが、4月に入り火山灰を含む噴煙が出始め、また第1火口底一帯にこぶし大の噴石落下の跡もみられたので、阿蘇山測候所は12日16時、臨時に火山情報を発表した。4月21日現在、鳴動や臭気が強いが、噴石活動もその後なく、特に大きな変化はみられない。3月31日から大きくなり始めた連続微動は、4月に入って平均振幅0.3～0.6  $\mu$ 程度の変化をくり返している。

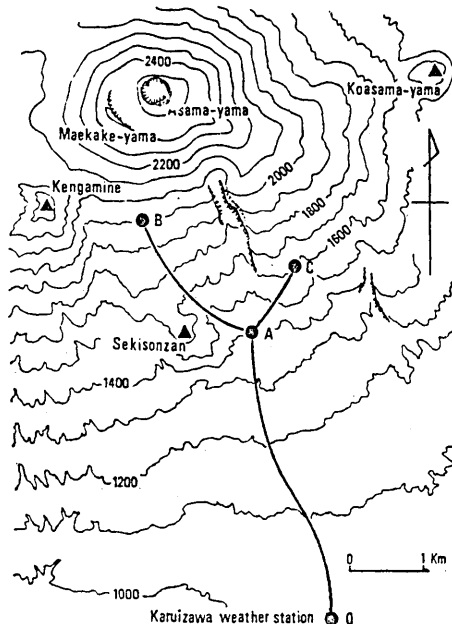
月別回数次のとおり。

月	1	2	3
地震回数	83	34	34
孤立型微動回数	78	10	106
微動平均振幅	0.1 $\mu$	0.1 $\mu$	0.2～0.3 $\mu$

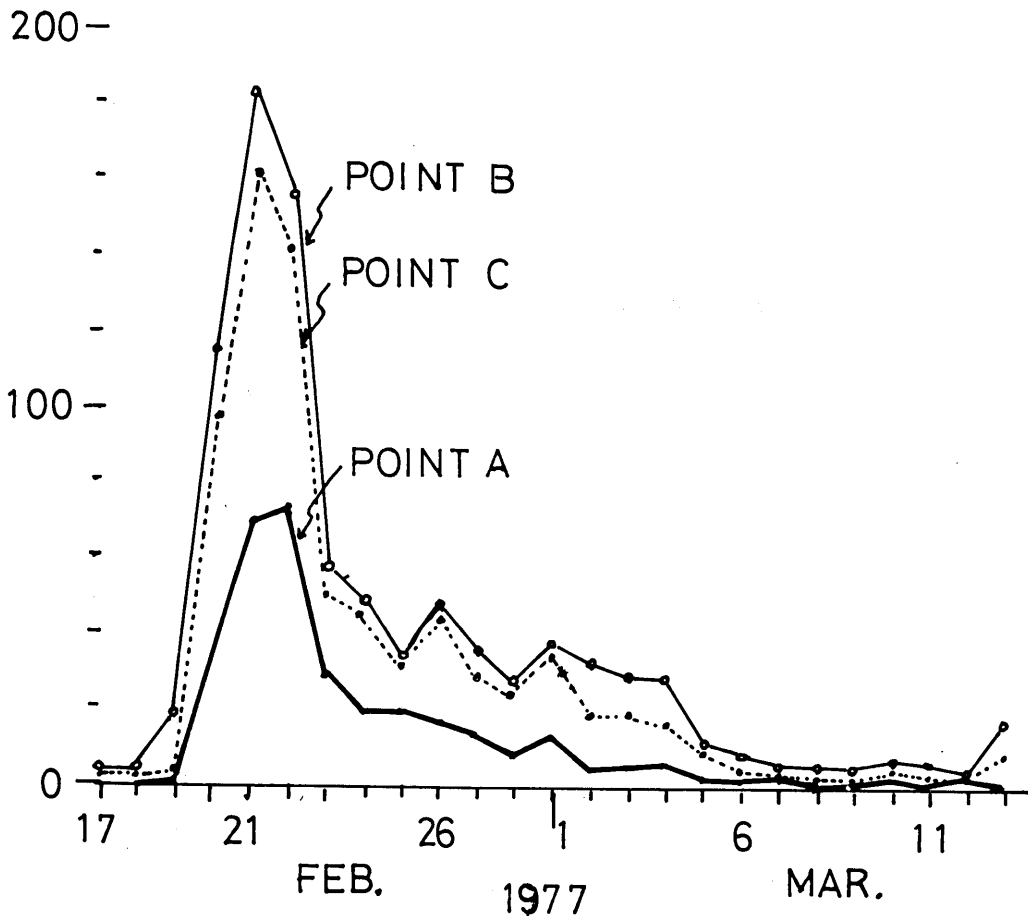
### 浅間山

2月20日から23日にかけて火山性地震が群発したので、軽井沢測候所では2月21日15時45分、臨時火山情報を発表した。地震回数はその後減少した（第2図）。2月の地震回数は前月に比べB点はやや減少したのにC点は増加、A点はかなり増加するという特徴を示した。3月に入りほぼ平常状態にもどり、穏やかな状態が続いており、3月の地震回数は51年4月以降の最低水準に落ち込んだ（第3図）。月別地震回数は次のとおり。

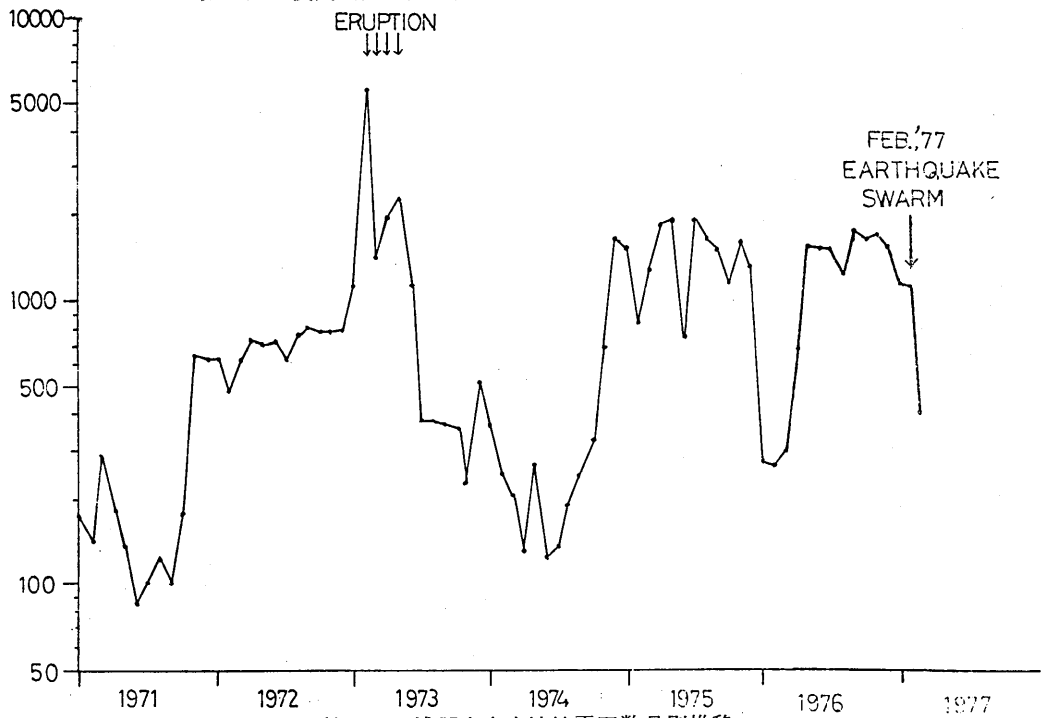
観測点 \ 月	1	2	3
A	20	292	66
B	1158	1135	398
C	561	801	244



第1図 浅間山地震観測点配置（軽井沢測候所）



第2図 浅間山火山性地震日別ひん度推移(観測点別)



第3図 浅間山火山性地震回数月別推移  
観測点: 軽井沢測候所B点

## 伊豆大島

煙もみられず穏やかな状態が続いているが、ただ3月28日に火山性地震がやや増加し、うち2回は測候所(元町)で有感であった。

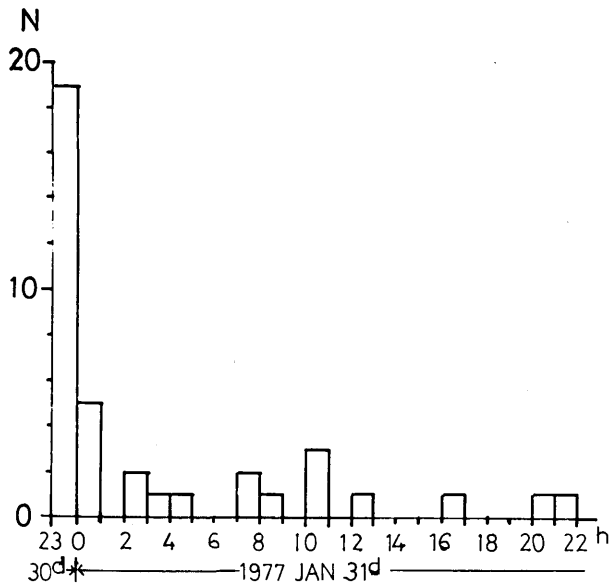
## 那須岳(宇都宮地方気象台報告)

### 那須岳付近の有感群発地震

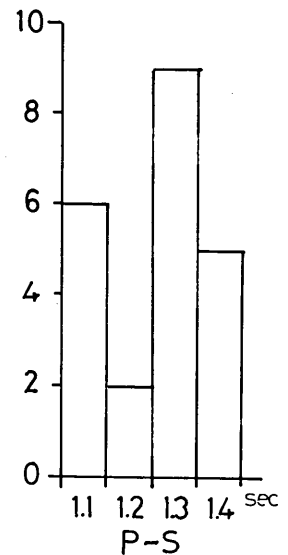
昭和52年1月30日から31日にかけての夜半に、那須岳付近を震源とする有感を含む群発地震が発生した。那須岳(茶臼岳)南東2kmに感震部を置く宇都宮地方気象台那須火山観測基地の電磁地震計(3000倍)によると、30日23時から31日22時までに38個の地震を記録したが、そのひん度推移は第4図のとおりで、最初の2時間で大部分を占めた。茶臼岳南東1.8kmにある那須火山観測基地(黒磯町)における有感地震の内訳は次のとおり。

30日23時01分 震度Ⅱ  
 23時02分 " Ⅰ  
 31日00時08分 " Ⅲ  
 00時36分 " Ⅰ

また前記38個の地震のうち、P~S不明の16個を除く地震のP~Sは、1.1~1.4 secに分布する(第5図)。



第4図 地震ひん度推移(1時間ごと)  
 観測点: 那須岳A点



第5図 P~S分布

気象庁ネットワークによる震源は、主な2個の地震について次のように決定された。

第 3 表

No.	発 現 時	震 央	深 さ	マグニチュード
1	30d23h01m	37°00' N 139°57' E	5 km未満	3.7
2	31d00h08m	37°01' N 139°56' E	”	3.3

これらの震央と観測点等の位置関係は第6図のとおりで、震央は茶臼岳山頂の南～南々西約10 kmに位置する。

那須火山観測基地の前記電磁地震計による最近の地震回数の毎月の推移は、51年8月56回、9月71回、10月34回、11月23回、12月23回、52年1月60回、2月43回で、観測基地からの火口遠望観測によれば、噴煙やや多い程度で表面現象に異常は認められなかった。

#### 草津白根山（前橋地方気象台報告）

本連絡会会報第8号で報告済み。

#### 三宅島（3月9日 火山情報）

3月8日、雄山の現地観測を実施したが、噴気温度や地中温度は特に異常は認められなかった。

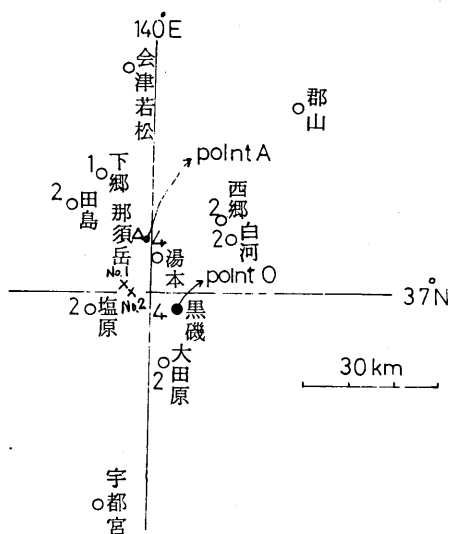
火山性地震の月別回数は11月13回、12月6回、1月8回、2月4回で、この中には三宅島近海の地震も含まれている。

#### 霧島山（1月10日 火山情報）

本連絡会会報第8号で報告済み。

#### 諏訪之瀬島（諏訪之瀬島分校）

51年11月～52年1月、噴火なし



第6図 那須岳付近の有感地震とその震央  
×印：震央、*n*は第3表と同じ  
数字：関係気象官署調査による有感地震回数を示す。  
Point A：電磁地震計感震部、  
Point O：観測基地

海底火山（海上保安庁水路部報告）

ア、日吉沖の場（南硫黄島南東方約90 km）

1月10日、海上保安庁所属YS-11機、変色水を確認。2月24日までたびたび変色水を確認したが、3月18日は変色水は認められず、以後はときどき弱い変色水を認められる程度となった。

イ、福神岡の場（南硫黄島南東方約300 km）

2月5日、11日、18日、3月3日、変色水を確認。